



私にもできる 支援あうまちづくり

こころ かいていばん
心のバリアフリー ハンドブック [改訂版]

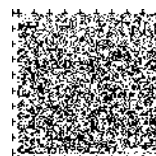


まち だし
町 田 市

まち だし ふく し すい しんきょう ぎ かい
町田市福祉のまちづくり推進協議会



けいたい よ こ
携帯読み込みコード



まちへ出て行けるかしら？

みんなのまちには、いろいろな人が住んでいます。
誰もがみんな自由にまちへ出て、人と会ったり、
買物をしたり、仕事に就いたり、学校に行ったり、
食事を楽しんだりしたいのです。

しかし、障がい者や高齢者が、
まちへ出かけていくのは、まだ大変です。
何が原因になっているのでしょうか？
お互い支えあう生活はできるでしょうか？

案内や誘導はちゃんと
しているかしら？

道は歩きやすいかしら

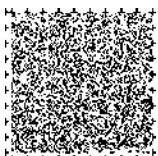
駅にエレベーターは
あるかしら

使えるトイレが
近くにあるか心配ね



困った時 解決できるか心配です

バスや電車は
座れるかな？



SPコード：文字情報を音声に変える2次元の情報コードを持ったシンボル(模様マーク)でこの
パンフレットの右か左の下に印刷されています。専用の活字文書読取装置で音声に
変換してください。



「こんにちは」とひと^{こと}と言あいさつ
できるようにしましょう。

みんなどこかで、
だれ^{だれ}とも^{とも}さき^{さき}
誰かと「共に支えあって」
せい^{せい}かつ^{かつ}
生活しているのですから。

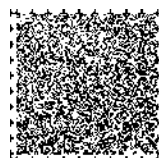
まち^{まち}の中^{なか}で困^{こま}っている人^{ひと}を見^みかけても、
また、自分^{じぶん}が困^{こま}ったときにも、
なかなか「ひと^{こえ}声」*をかけることが
できないものです。

*聴^{ちやうかくしやう}覚^{しや}障^{うし}がい者^{しや}には、後^{うし}ろから^{うし}の「ひと^{こえ}声」では気^き
がつか^{つか}ま^ませんので、な^なる^るべ^べく^くそ^その^の人^{ひと}の^{しやうめ}ん^{めん}から、
め^めあ^あひ^ひよう^{よう}し^しよう^{よう}
目^めを^あわ^わせ^せて、表^{ひやう}情^{じやう}が^あわ^わか^かる^るよ^よう^うに^に声^{こえ}を^をか^かけ^けま^ます。

こ^こま^ま困^{こま}った^{ようす}様^{ひと}子^みの人^{ひと}を見^みかけたら、
「ひと^{こえ}声」かけ^{かけ}ま^まし^しよう^う。
また、て^てだ^だす^すひ^ひつ^つよう^{よう}
手^て助^{すけ}け^けが^が必^{ひつ}要^{よう}な^なとき^{とき}には
『あ^{あい}い^いの^のス^すカ^かー^ーフ』や『し^しあ^あわ^わ
幸^{けい}せ^{せい}の^のリ^りボ^ぼん』
い^いった^めめ^め目^め印^{じりし}をつ^つけ^ける^るい^いう^う
ほう^{ほう}ほう^{ほう}
方^{ほう}法^{ほう}も^もあ^あり^りま^ます^す。



ひと^{こえ}声^{こえ}か^かけ^けて^て、私^{わたし}も^も気^き持^{もち}ち^ちが^がよ^よか^かった^{った}



まちのなかでこんなふうに困っています



の
乗れない!

ホームと車両の間にすき間
や段があるとひとりで乗り
こ越えられません。



すす
進めない!

まち だ 町田には坂道も多いので、
て だす 手助けは助かります。



バリアフリーになっても
ちょっとした配慮が感じら
れると、うれしいです。

とど
届かない!

くるま 車いすの足のせ台が奥まで
はい 入る券売機がないと、切符
をかうのに苦労します。

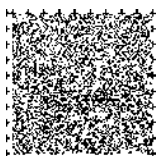


つか
使えない!

かた 片まひの人や片手が不自由
な人は荷物を持っている
と、エレベーターのボタン
を押すのが大変です。



ちか
近づけない!





つまずく!
ころころ
転ぶ!
迷う!

ほどう歩道がなく、また誘導用ブロックもない道を歩くのは、大変です。



ぶつかる!

自転車は、決められた場所にとめてください。まして、誘導用ブロックの上にとめられると、視覚障がい者には危険です。

み
見えない!

視覚障がい者は、席が空いているのかわかりません。

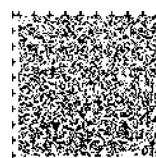


高齢者や弱視の人には、小さな字は読みにくい。大きな字や、読みやすい色やデザインは、みんなにもわかりやすいです。

よ
読めない!

き
聞こえない!

聴覚障がい者には、車内放送がわかりません。また、駅などの窓口で切符を買うのに苦労します。

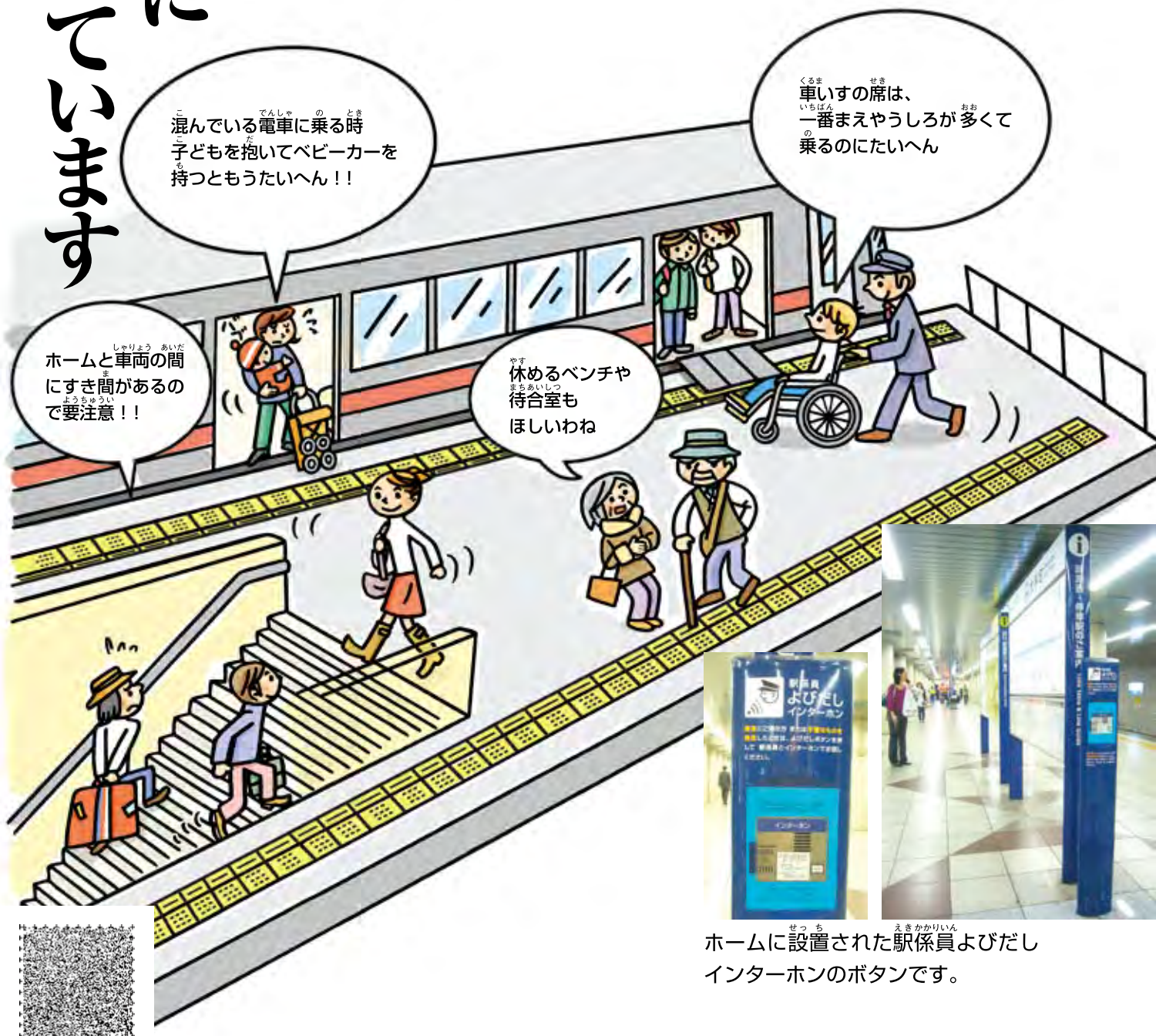


たとえば電車に乗るときに困っています

えき 駅ではエレベーター、車椅子使用者対応トイレや誘導用ブロックなどのバリアフリー
せいび 整備がすすみます。しかしそれをつかうときは、こま 困っているひとへの
はいりよ 配慮がほしいのです。



●駅のエレベーターはルールを守って
エレベーターは、ほんとうに必要としているひとにゆ
ずりましょう。(JR成瀬駅)



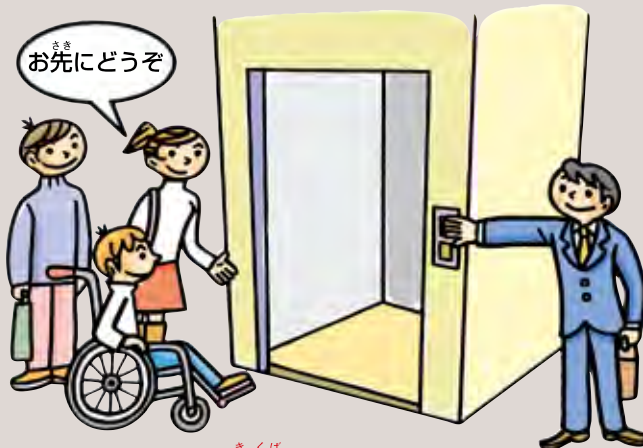
ホームに設置された駅係員よびだし
インターホンのボタンです。

私たちにできることもあります!!



●話を聞く

声をかけられたら、ちょっと立ち止まって話を聞いてあげてください。



●まわりの人に気配り

エレベーターは、高齢者や障がい者を優先しての、乗り降りに配慮しましょう。



●気軽に手助け

手助けをお願いしたら、快く引き受けてください。介助者でなく、本人と直接話をしてください。



●席をゆずりましょう

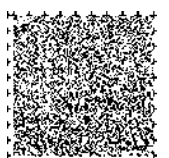
優先席でなくても、立っているのが大変そうな人がいたら、寝たふりなどしないで、席をゆずりましょう。



* マタニティマークをバッグにつけています (P.15参照)

●皆で手助け

自分ひとりで手助けが難しいときは、近くの人や職員を呼びに行きましょう。



た^かと^もえ^みば^せお^み店^せで^み 買^かい^も物^のす^かる^かと^かき^か困^こっ^こて^こい^こま^すす

お^み店^せの中^{なか}では、視^し覚^{かく}障^{しょう}が^いい^{しゃ}者^{しや}には、商^{しょう}品^{ひん}の配^{はい}置^ちや形^{かたち}が似^にたもの^みの見^みわ^わけ^けが
で^でき^きま^ませ^せん。ま^また、車^{くる}い^しす使^し用^{よう}者^{しや}には、手^ての届^{とど}か^かない所^{ところ}にある商^{しょう}品^{ひん}は困^こり
ま^ます。こ^こう^こう^こい^いう^う時^{とき}にはチョ^てット^だした手^て助^{すけ}け^けが必^ひ要^{よう}で^です。

お^み店^せに^いく^いま^まで^でに^も、歩^ほ道^{どう}上^{じやう}に様^{さま}々^ざな^なもの^もがあ^あっ^って、安^{あん}全^{ぜん}に歩^あけ^ける^るか不^ふ安^{あん}
で^です。特^{とく}に誘^{ゆう}導^{どう}用^{よう}ブ^ぶロ^ろク^くは視^し覚^{かく}障^{しょう}が^いい^{しゃ}者^{しや}がひ^ひと^とり^りで歩^あく^くと^とき^きに最^もも^も頼^たり
に^にし^して^てい^いる^る道^{みち}案^{あん}内^{ない}のサ^さイ^いン^んで^です。



*「身体^{しんたい}障^{しょう}害^{がい}者^{しや}補^ほ助^{じょ}大^{だい}法^{ほう}」が^がで^でき^きて、不^ふ特^{とく}定^{てい}多^た
数^{すう}の^の人^{ひと}が利^り用^{よう}す^する^る施^し設^{せつ}へ^への、盲^{もう}導^{どう}犬^{けん}・介^{かい}助^{じょ}犬^{けん}・
聴^{ちやう}導^{どう}犬^{けん}の^の出^で入^いり^りを拒^こめ^めな^なく^くな^なり^りま^まし^した^た。

私たちにできることもあります！！



●声をかける

困っているときには声をかけてほしいものです。



●商品の説明をする

直接さわれるものはさわって確認してもらいます。また、内容の説明が必要なものは、具体的に説明をします。



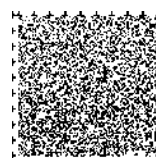
●手助けが必要か伺う

白杖や盲導犬使用者が来られたら、声をかけて、どのような手助けが必要か伺います。



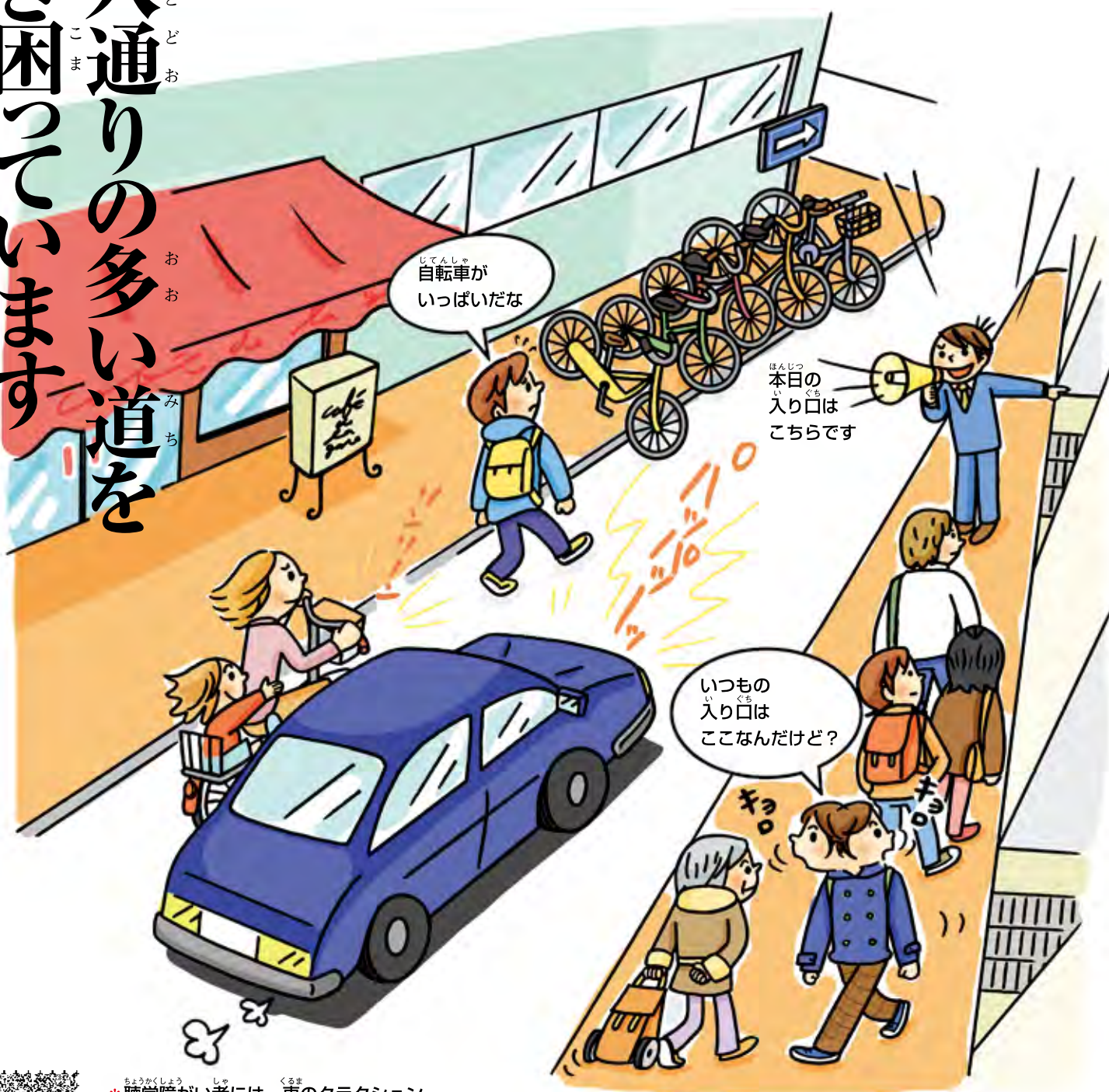
●商品を取る手助け

視覚障がい者や車いす使用者は、手の届かない商品の買い物に困ります。ちょっと手にとってあげると、とても助かります。また、落としたり拾うときも手助けが必要です。

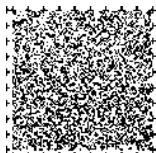


たとえば人通りの多い道を 歩くとき困っています

聴覚障がい者は外見からはわかりにくいものです。音が聞こえないだけでなく、言いたいことを音声にして伝えることがむずかしい人もいます。また話したり、聞いたりが不便な人もいます。そのため、私たちがコミュニケーションのとり方の基本を習得することが大切です。話しかける時の基本(P3 参照)、効果的な筆談の方法 (P11 参照)、簡単な手話 (P21 参照)、などです。



*聴覚障がい者には、車のクラクションや自転車のベルが聞こえません。



私たちにできることもあります!!



●自転車置き場に止める

ある 歩いている人に迷惑にならないように、自転車は決められた場所に置きましょう。

●筆談で話しかけられる

音声以外で道を聞かれても、あわてず、筆談にも対応しましょう。

*筆談の方法

簡潔に、要点を整理して書くとわかりやすいです。



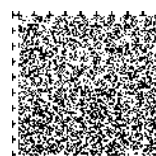
●筆談で対応する

話を音声で伝えられない人もいます。筆談で対応することができるようにならなう。



●まわりの人に気配り

優先席や混雑した車両では、ペースメーカー使用者に配慮して、携帯電話の電源は切りましょう。



私たちはまちの中で、いろいろな人と いっしょに暮らしています

「外見では障がいのあることがわからない人」もいます。知的なことや精神面から配慮の必要な人、認知症の人などです。また、「人との関わりがスムーズにいかない人」もいます。その場合は、“おかしい人、変な人”と思わずに、見守ってください。

● 困っていたり、そわそわ・きよろきよろしている様子がある。ブツブツ言っている。



● 何を言っているのかわからないが、何かを伝えようとしている様子で、店員が対応に困っている。

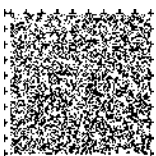


外見ではわからない 障がいのある人を 理解しましょう



本人から知らない人に話しかけたり、助けを求めることができない場合も多いのです。

困った様子の人に出会ったら、わかりやすい言葉で、「どうされました? (どうしたの?)」とやさしく接し、安心でき、リラックスして話せる雰囲気を作ってください。



知的なことなどで、配慮の必要な人

行動を理解してください

知的な発達について課題のある人は、自分の生活や行動を、社会や他の人に合わせていくのが難しいことがあります。あるものに特別なこだわりを持ったり、同じ行動をくり返したりする人もいます。その人に合ったコミュニケーションの方法を見つけ、社会生活を支援する手だてがあれば、様々なチャンスが広がる可能性があります。さりげなく、普通に見守ってください。



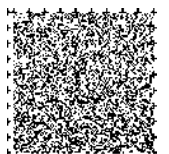
● 決まりごとを守ったり、相手に合わせたりすることが難しい人もいます。自分の思うままに行動するため、まわりの人に理解されにくいのです。例えば、こだわりの席にどうしても座りたいと求める人もいます。

私たちにできることもあります!!

- ・ 人によって、行動やコミュニケーションの特性は様々ですから、そのことを理解しましょう。
- ・ 成人の人を、子ども扱いはしないでください。
- ・ 行動を決めていくのは本人です。本人の自主性・意思を尊重しましょう。
- ・ 話すときは、「具体的に簡潔に」「わかりやすく」「ていねいに」「ゆっくりと」必要があれば「くり返し」話しましょう。
- ・ 絵や図、メモなどを使って、相手の理解を確かめながら話すことも有効です。

受付での好ましい方法の例です

わかりやすく説明する方法は、わかりやすい言葉を使い、ゆっくり、はっきり、具体的に話すことです。



精神面から、人との関わりが難しく、 配慮の必要な人

行動を理解してください

人との関わりで配慮の必要な人は、不安を多く持っていたり、緊張したりすることが多く、社会生活や日常生活を送る上で様々な困難があります。細かいことにこだわる、身だしなみをうまく整えられない、人付き合いが苦手などの困難がある人もいます。また、薬の副作用で早く起きられない、疲れやすいという人もいます。まわりの人が理解をもって接することで、こうした困難を軽くできることがあります。適切な治療・薬、リハビリテーションや支援により、地域で安定した生活を送ることができるようになっていくことも理解し、応援してください。



● 色々考えてわからなくなってしまうこともあります。

私たちにできることもあります!!

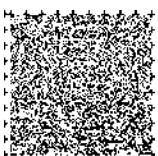
- ・ いろいろな人が暮らしていることを、私たちが理解し、慣れることです。
- ・ 「おはよう」「こんにちわ」などのシンプルなあいさつが望ましいです。
- ・ 相談されたときには聞き役になり、自分の意見は極力抑えます。
- ・ 見守る態度が好ましいです。



● 人が話している姿を見て、自分が笑われているような気がする人もいます。



● 人混みが、とても怖いと感じる人もいます。



こんな生活支援の道具やマークがあると安心して生活ができます

コミュニケーション支援ボードの利用

コミュニケーションを支援する道具がいろいろ考案されています。



●例えばコンビニで



●例えば病院で



●例えばお店で

わかりやすい会話の基本は、やさしく、簡単な言葉でゆっくりと話しかけることです。また伝えたいことを、わかりやすく書くこともひとつの方法です。絵や図を使って、コミュニケーションする方法も考案されて使われています。

* 出典は裏表紙をご覧ください。



さまざまな利用者への配慮が、マークになっています

国際シンボルマーク



すべての障がい者が利用できる建築物、施設を示すマークです

身体障がい者マーク



身体障がい者が運転する車に表示するマークです

耳マーク



筆談をしますのでお申し出ください
聞こえが不自由なことを示すマークです

ハート・プラスマーク



「身体内部に障がいがある人」を示すマークです

AED マーク



心臓がけいれんした時電気ショックを与え、正常に戻す医療機器を設置しているマークです

マタニティマーク



妊産婦がカバンなどにつけて周囲が配慮をしやすいマークです

オストメイトマーク



オストメイト用の設備を備えていることを示すマークです

視覚障がいのマーク



視覚障がい者に配慮した建物、設備などを示す国際シンボルマークです

ヘルプカード



障がい者等の援助を必要とする方が携帯し、必要な支援や配慮を周囲の人へお願いするためのカードです

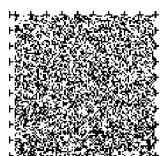
補助犬マーク



ベビーカーマーク



* 主に身につけます
P.7のイラスト参照



公共交通がバリアフリーになると、 多くの方がひとりで外出できます

さいきん だれ つか こうつう し せつ せい び すす
最近では誰もが使いやすい交通施設の整備が進んできました。

まち だ えきまへ こうきょう せい び い どう
JR 町田駅前のデッキにも、公共のエレベーターとエスカレーターが整備されて、だれでも移動しやすくなりました。



●エスカレーターでの配慮

みぎがわ しょうかん はし つか ひと
右側をあける習慣や走って使う人もいますが、右
て からだ ささ ひと ようじ つか ひと こうれいしゃ
手で体を支える人や幼児と並んで使う人、高齢者
は危険を感じる場合があります。

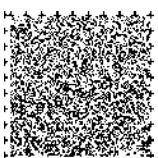
「やまゆり号」が 2007 年の春から新
しくなり、共同配車センター事業とし
て民間事業者が運行しています。車い
すのまま乗れる車両を使った移動サー
ビスを行っています。

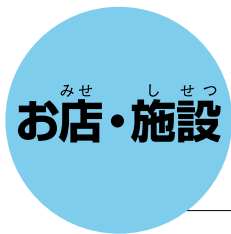


エレベーターやベンチなど駅のバ
リアフリー整備も進んでいます。



多様なニーズに対応した「車椅子使用者対
応トイレ」の整備も進んでいます。





こんな整備や手助けがあると、 ひとりでも安心です

バリアフリー整備ができている店でも、手助けが必要な人もいます。

くるま し ようしゃ か
車いす使用者の買
物では、高い位置に
ある品物を取る手助
けが必要です。



もうどうけん し ようしゃ か もの うり ば
盲導犬使用者の買い物では、売場
の案内や品物を手にとって確認し
てもらうなどの手助けが必要です。



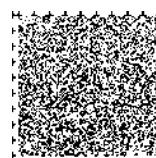
レストラン「喫茶杜舞人」では、障がい
のある人が一緒に働いています。



市役所の中に、授乳室があります。



市役所の中に、AED が設置されてい
ます。AED は心臓がけいれんし、血
液を流す機能を失った状態のときに、
電気ショックを与えて、正常な機能に
戻すための医療機器です。



こんな整備が進めば、 ひとりでも安心です

重要な情報は音声だけでなく、文字や視覚情報（電光表示など）で伝えます。携帯電話によるメール（文字情報）、音声読み上げ機能などの利用も増えています。



●手話通訳と同時通訳 の字幕表示

手話通訳に加え、現在は発言内容をフィルムに書いて、OHPで投影する方法が採用されています。最近パソコンに発言内容を入力して、スクリーンに投影する方法もあります。



●文字情報（電光表示） と音声情報の併用

緊急時の情報も、音声情報とともに文字情報でも案内します。



●文字と手話の表示

テレビの放送内容も、文字だけでなく手話も併用するとよりわかりやすいです。



●視覚で伝達する設備

ホテルの客室では、ノックやインターホンと照明の点滅を連動させる方法もあります。



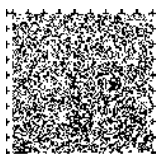
●手話や筆談での窓口対応

聴覚障がい者は、手話ができる人がいるととても安心できます。手話ができる人がいない場合は筆談で対応します。



●音声案内設備

施設の名前や現在の場所を音声で案内すると正確にわかります。



どこを持てばよいのか、どう押せばよいのかは、車いす使用者本人によく聞きます。階段は2段以上の場合、ひとりで手助けできません。無理をしないで、ひとりでできないときは、まわりの人に声をかけましょう。例えば、駅員や従業員を呼びに行き、知っている人にアドバイスしてもらい、いっしょに手助けすれば、車いすを使っている人も安心です。

●止まる場合



少しでも離れる場合は、必ずブレーキをかけます。ほんの少しの勾配でも動きだしてしまい、危険だからです。

●坂道の場合

《上り》

しっかりグリップを握って、上りは押し戻されないよう腰を入れて、ゆっくり押します。



《下り》

下りは引き戻すようにします。グリップはしっかり握って、手が離れないように注意します。

*下り坂の場合は、後ろ向きのほうが安心できる場合もあり、本人の希望を伺って手助けをします。



●段を上がる場合

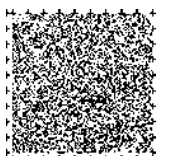


①キャスターを上げる ②キャスターを段に乗せる ③後輪をゆっくり押し上げる

●段を下りる場合



①後輪を下ろす ②キャスターを少し浮かせ、後ろに引く（やや押し気味にするとゆっくり下ろせます。） ③キャスターを下ろす



視覚に障がいのある人の手助けの方法を知ってください——入門編

視覚障がい者が困っている様子に気がいたら、まず声をかけて手助けが必要か、聞いてください。いきなり触れたり、手を引いてはいけません。そして、どのような手助けがしてほしいかをよく伺います。

●腕をつかんでもらうのが基本



●決して手を引っ張らない



●階段での誘導では、常に状況を伝えながら誘導します



一旦止まり、上がりか下がりか知らせます。



歩調を見て、一段一段確実に上がり(下がり)ます。



階段が終わったら、知らせて一旦止まります。

●手すりへの誘導は手を添えます
(電話や商品についても同じです)



●金銭を受けわたす場合は、
金額・おつりを声を出して
はっきり伝えます



100円玉
2枚で200円
のおつりです

手話は、練習して使い慣れないと、なかなか使えないものです。そこで手話ができなくても、話す相手の人を見て、口を大きく開けて話しながら、表情や身振りを交えてあいさつしたり、筆談をするなど、なんとか伝えたいという意志を持つことが大切です。下の図は基本的なあいさつの手話です。少しでもできると、聴覚障がい者は安心できます。

●すみません



みぎて みけん つまみ、みぎて かお ちゆう 中央から下ろす。

●わたし



ひと さ ゆび はな 人差し指で、鼻もしくは胸を指す。

●聞こえません



みみ よこ て ひら した 耳の横で手の平を下にして、指先を上下に振る。

●書いて



ひだり て ひら みぎて うえ 左の手の平に、右手で上から下へ書く。

●お願いします



みぎて かお ちゆう 中央から下ろす。

●ありがとう



ひだり て こう みぎて ちようかく 左手甲に右手を直角にのせ、上に上げる。

●手話



へいこう りようてひと さ ゆび 平行においた両手人差し指を回転させる。

●わかりません



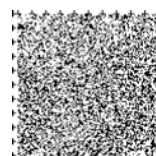
みぎて みぎわきまえ かいばら あ 右手で右脇前を2回払い上げる。

●わかりました



みぎて むね した 右手を胸にあて下におろす。

手話で注意したいことは、手だけを使うのではなく、相手の人の正面で話しながら、表情を交えて手を動かすことです。手話通訳の支援については、裏表紙の「町田市障がい福祉課」にお問い合わせください。



① 肢体の不自由な人

(車いす使用者・片まひで杖を使用している人など)

- ・長距離・長時間歩いたり階段・急な坂の移動が困難です。
- ・自動販売機や券売機などの機器が使いにくいです。
- ・片まひの人は、片足に重心がかかり転びやすい上、右手または左手しか使えません。



② 視覚に障がいのある人

- ・全盲の人は、白杖、盲導犬、ガイドヘルパーと外出しています。
- ・全盲の人や重度の弱視の人がひとりで歩くときには、前方の安全を確認するために白杖を使っています。これがないと、前方の様子がわからない為に歩けません。
- ・軽度の弱視の人は、光や物の輪郭等を判断でき、誘導用ブロックの黄色いラインを目印に歩けます。
- ・点字を読める人は案外少ないのです。むしろ音声による案内が望まれています。



③ 聴覚・言語に障がいのある人

- ・話しをするときになって、初めてその障がいに気づくことが多く、外見上わかりにくいものです。
- ・話したり聞いたりするときには、手話や筆談が必要です。
- ・放送が聞こえないために、電光表示などの視覚的な案内や表示が望まれています。
- ・後からの接近音(車や自転車の音)やクラクションなども聞こえません。



④ 内部障がいの人

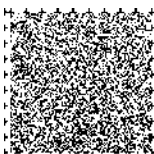
- ・心臓、腎臓、呼吸器、膀胱・直腸、小腸、免疫機能障がいの6つの障がいの総称です。
- ・内部障がいのある人は、疲れやすいとか、何らかの生活補助器具を用いている人も多います。例えばペースメーカーやストーマなどがあります。

* 呼吸器機能障がい

肺機能に障がいのある人は、普通の呼吸では十分な酸素を取り込むことができないため、高濃度の酸素を外部から補給することが必要になり、酸素ボンベを携帯して外出することになります。

* ペースメーカー

心臓の機能が低下し、必要な脈拍数を作れない病気の時に使われる人工臓器です。ペースメーカーは電磁波の影響を受けるため、例えば携帯電話は20cm以上離して使用しなければならないとされています。



*オストメイト

直腸、膀胱等の機能障がい（しゅんたい）の疾病治癒の目的で、身体に造設した人工肛門、人工膀胱（ストーマ）を持っている人です。

⑤ 知的なこと（ちてき）で配慮（はいりょ）の必要な人（知的な障がいのある人）

・複雑（ふくざつ）な事柄（ことば）の理解（りかい）や判断（はん断）、こみいった文章（ぶんしょう）や会話（かいわ）の理解（りかい）が不得手（ふえて）であったり、周りの状況（じょうきょう）や抽象的（ちゅうしやうてき）な表現（ひょうげん）の理解（りかい）、未経験（みけいけん）のことや状況（じょうきょう）の急（きゅう）な変化（へんか）に対応（たいおう）が困難（こんなん）という人（ひと）が多い（おほい）です。

・わかりやすく、ゆっくりと、具体的（ぐたいてき）で簡潔（かんけつ）にコミュニケーション（たいせつ）することが大切です。

⑥ 精神面（せいしんめん）から、人（ひと）との関わり（かんわり）が難しく（むずか）、配慮（はいりょ）の必要な人（精神障がいのある人）

・被害妄想（ひがいもうそう）や幻聴（げんちやう）、幻覚（げんかく）があると周囲（しゅうい）の状況（じょうきょう）を認識（にんしき）する力（ちから）が妨（さまた）げられたり、適切な判断（てきせつ はん断）が難しく（むずか）なって対人関係（たいじんかんけい）をこじらせ、さまざまな場面（ばめん）で生活（せいかつ）がしづらくなる（おく）ことがおきます。

・偏見（へんけん）や誤解（ごかい）がまだ社会（しゃかい）一般（いっぱん）に残（のこ）っていますが、適切な治療（てきせつ ちりやう）・薬（くすり）により「病気の治療（びやうき ちりやう）」を行い、リハビリテーション（せいかつ かいぜん）や支援（しえん）により「生活（せいかつ）の改善（かいぜん）」をすすめ、地域（ちいき）で安定（あんてい）した生活（せいかつ）を送（おく）ることができる（りかい）ようになっている（おうえん）ことも理解（りかい）し、応援（おうえん）してください。

⑦ 高齢者（こうれいしゃ）・妊婦（にんぶ）・外国人（がいこくじん）など

・高齢者（こうれいしゃ）は、身体機能（しんたいきん）が全般的（ぜんぱんてき）に低下（ていか）しているため、生活（せいかつ）全般（ぜんぱん）に、身体的（しんたいてき）・心理的（しんりてき）負担（ふたん）を感じ（かん）ています。

・妊婦（にんぶ）は安全（あんぜん）を気づ（き）かって、転（ころ）んだりしないよう（ちゅうい）にいつも注意（ちゅうい）しています。階段（かいだん）でさえ危険（きけん）を感じ（かん）ています。

・日本語（にほんご）だけの表示（ひょうじ）では、外国人（がいこくじん）にはわかり（に）にくい（に）です。また日本語（にほんご）でも、字（じ）が小（ちい）さかったり、難しい（むずか）言葉（ことば）がたくさん使（つか）われいる（こうれいしゃ）と高齢者（こうれいしゃ）や子ども（こども）には、わかり（に）にくい（に）です。



⑧ 認知症（にんちしやう）

・脳（のう）や身体（しんたい）の疾患（しっかん）が原因（げんいん）で、記憶（きおく）や判断力（はんだんりよく）などに障（しょう）がいのおきる病（びやう）気（き）です。物忘れ（ものわす）の症状（しょうじやう）が多く、意欲（いよく）の低下（ていか）や言葉（ことば）の障（しょう）がい、注意力（ちゅういりよく）の低下（ていか）などにより、社会生活（しゃかいせいかつ）がしづらくなる（こうい）こともあります。行為（こうい）を否定（ひてい）したり説得（せっとく）せず、その方（かた）の認識（にんしき）に合（あ）わせる（たいおう）ように対応（たいおう）します。

中学校（ちゅうがっこう）でも、ふれあう機会（きかい）を持ち（も）ました



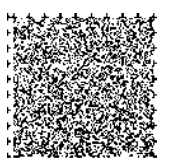
体験談（たいけんだん）を話（はな）す（武相新聞 2003.1.1）



ひと言（こと）お礼（れい）を言（い）って解（かい）散（さん）



スワンベーカーリー
障（しょう）がいのある人（ひと）が
一（いつ）緒（いっしょ）に働（はたら）いています





サービス介助セミナー

市民、バス事業者、職員がガイドヘルプなどの研修を行いました。
体験によって、自然に声をかけられるようになりました。

研修、ボランティア等について、情報提供や講師派遣などの協力を得られる窓口

名称	場所	電話	FAX
町田ボランティアセンター	町田市民フォーラム 4 階	042-725-4465	042-723-4281
町田市地域福祉部障がい福祉課	町田市庁舎 1 階	042-724-2136	050-3101-1653
町田市地域福祉部福祉総務課	町田市庁舎 7 階	042-724-2133	050-3101-0928

●心のバリアフリーハンドブックの発行にあたって

市では、すべての市民が地域で安心して暮らせるまちづくりを推進するため、市民・事業者等で構成する町田市福祉のまちづくり推進協議会を設けています。ハンドブック発行のため、協議会に心のバリアフリー部会を設けて検討を行いました。内容は、バリアフリー整備とともに、この町で生活するすべての人が相互に理解を深め、協力し合えるための入門編になっています。

外出先、窓口、買い物等で困っている人を見かけたときの応対・接遇・手助け等について、障がいや困難のある人の意見を反映して、イラストや写真を使ってわかりやすく紹介しました。研修や学校教育でご活用いただきたいと思います。

●改訂版の発行にあたって

初版を 2003 年 3 月に発行して以来、ノーマライゼーションの進展を踏まえて、知的障がい者や精神障がい者ほか、多様な市民とともに暮らす地域づくりを目指して、改訂版を作成しました。
2008 年 7 月

町田市、町田市福祉のまちづくり推進協議会

編集・発行——町田市

町田市福祉のまちづくり推進協議会
連絡先——町田市地域福祉部福祉総務課
〒194-8520 町田市森野 2-2-22
<http://www.city.machida.tokyo.jp>
Tel: 042-724-2133 Fax: 050-3101-0928
編集協力——(株) アークポイント
デザイン——ニケデザイン 丹羽朋子
イラスト——加藤マカロン

●コミュニケーション支援ボード出版

全国特別支援学校知的障害教育校長会・(財) 明治安田こころの健康財団 <http://www.my-kokoro.jp>
だれでもご自由にダウンロードしてお使いいただけます。

●関連冊子

「伝えあうことから始めよう！・情報バリアフリーハンドブック」(2006.2 町田市、町田市福祉のまちづくり推進協議会)

刊行物番号: 18-12

2008年7月改訂版 初版発行
2018年7月改訂版 第11版発行

